

家政行動に及ぼす個人的価値の考察(その2) 生活領域と価値意識
 岩津高 ○中川妙子 金城学院大短大 生川浩子 福山女学園大家政
 山口久子 金城学院大 今井光映

目的 前報において、家政行動におけるホスピタリティ意識とタテマ意識について総合的に分析を行った。しかし、ここに分析された各々の価値についての考え方(欲求性向)と、行動(規範意識)には乖離の著しいものが検出された。また、“健康”“規範”“発展”“経済”などの価値は、考え方や行動において肯定する態度と否定する態度の両面が顕著に出現している。しかし、それらを生活分野別にみると、それぞれの分野に応じた特性が考察される。そこで、これらの生活分野での家政行動に及ぼす価値意識の構造と、心理的内部要因をより明確に解析する必要性を感じたので、衣・食・住その他の生活分野別に於いて価値意識の多変量解析を試みた。

方法 前報と同じ

結果 多変量解析の結果を座標軸にプロットすると、次の結果が得られた。①(+)値にグループ類型が見られるものは、衣生活の規範意識では“安定”“規範”、欲求性向では“安定”“能率”。食生活の規範意識では“健康・安全”“安定”“発展”“経済”“快適”。欲求性向では“健康・安全”“経済”“満足”。衣食以外の生活の規範意識では“健康・安全”“安定”“発展”“教育・教養”“快適”“規範”などであった。②(-)値にグループ類型が見られるものは、欲求性向において衣生活では“経済”、食生活では“能率”“規範”。衣食以外の生活では“能率”“発展”などであった。③広く散在する価値として、規範意識では“平和・平等”“能率”“満足”。欲求性向では“満足”“創造”などが見られた。④衣食以外の生活での欲求性向では、(+)値はほとんど見られなかった。